

保育計画成果報告書

法人名	株式会社アンペロス
施設名	さの ぶどうの樹保育園
報告者（役職）	柳田 真希子（事務）
住所・連絡先	栃木県佐野市石塚町 540-3
	☎ 0283-25-2180
	E-mail sanobudounoki-n@hyper.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

保育園のシンボルツリーと共に成長していこう！

○主な助成備品

砂場屋根一式

1. 保育計画策定の目的

さのぶどうの樹保育園は、公立保育園であった「赤見城保育園」「吉水保育園」「石塚保育園」の3園を佐野市では初めての統合民営化保育園として令和4年4月に開園した認可保育園です。

0歳児から就学前の子どもを総合的に支援するとともに公立保育園の基礎を引き継ぎ、家庭的な雰囲気の中で、愛情と信頼関係を基礎に健康、言葉、表現、環境、人間関係の5つの領域から生きる力の基礎を培っています。

保育目標「心も体も健康な子」「思いやりのある子」「チャレンジする子」を大切に、子どもに寄り添った保育をしています。

今回の応募に、砂場屋根とシンボルツリー「ぶどうの木」を選んだのは、佐野市は全国でもトップの暑さになる地域です。子どもたちの大好きな砂場遊びが日陰で安全にできるように、そしてさのぶどうの樹保育園のシンボルとして「ぶどうの木」と一緒に成長を観察、お世話、いずれは収穫し食育活動に繋げていきたいと思いました。

2. 具体的な実施内容

4月19日に砂場屋根設置記念として年長児によるシンボルツリーの植樹を行いました。ぶどうの木はつるの伸びる様子が「縁結び」花言葉は「元気」「良い仲間」「若さ」「思いやり」の意味があります。保育目標にも通じるものがあり、その思いを込め植樹を行いました。苗木は1年目の若い木を選び、移動できるように鉢植えて3年間育てます。子どもの視線で木が共に大きく育っていく様子を観察して欲しいと思います。



(一財) 第一生命財団寄贈 砂場屋根 園長先生のお話をみんな集中して聞いています

〈5 歳児〉

【話す人に注目して聞く】砂場屋根設置記念の植樹について、ぶどうの木の植え方、毎日の当番の水やりについてなど集中して聞くことができました。保育園の「シンボル」を知り、親しみを持つこともできました。

「なんの実がなるの？」から始まり「いつ実がなるの?」「いつ食べられるの?」と質問の嵐。全員一緒に興味がたくさん出て、具体的な話が保育士や友だちとできていました。とても充実した植樹になりました。

子どもたちは自分の水やり当番が来るのを心待ちにしている、当番がくると嬉しそうに報告をしてくれました。



植え方を聞いています



はじめに石を敷きます



一生懸命石を集めてくれました



石の上に土を入れます



シンボルツリーの植樹



みんなで水まき!

〈4歳児〉

【目的をもった行為】砂場で遊ぶ時、普段は個人やグループで遊んでいることが多いですがこの日は違います。高い山をクラスみんなで作っています。山を高く作るにはどうしたら良いか？みんなで相談し「こうしてみよう！」「こうしたらいいんじゃない？」と声をかけあい、先のイメージを持って協力して作業を進めています。がんばって二つの大きな山ができました。この山は次に遊ぶ年下クラスの子どもたちのためです。

1月からは年長児からぶどうの木のお世話、布団敷きなど引き継ぎがはじまり、まわりの役に立つ、お手伝いのできる憧れの年長に心はずませています。「年下クラスのための！」と、とても思いやりのある行動が見られました。



作業をみんなで分担 どうしたら高くなるかな？ 力持ちが頑張る！ 協力して二山できました

〈3歳児〉

【同じ遊びを楽しむ】年中児が使っていたスコップを使ってまねっこです。同じように山を高くしようとしています。なかなかうまくいきませんが、でも普段、砂場がない「高い山が二つも！」と、みんな喜んでます。いつもはバケツや小さいスコップが人気です。今日ばかりはお兄さん、お姉さんと同じようにとチャレンジ心がいっぱい湧いています。気持ちがいつもと違いました。この日は砂場に掛けるシートを保育士と一緒に手伝い。進んで喜んでお手伝いをしていました。とても成長が見られる素晴らしい日になりました。



よいしょ！スコップが
持ち上がらない

高い山だー！
登れるかな？



〈0歳～2歳児〉

【ふれあいを楽しむ】【バランスをとる】【指先で物を操作する】0～2歳は一緒に仲良く砂場遊びをすることが多いです。保育士やお友だちとふれあいながら人間関係を育んでいます。自分で玩具を選んだり、スコップを使って砂の感触を確かめたり、コップやバケツを複数持つなど器用に指を使うことを覚えていきます。砂場のふちでバランスをとって座ったり歩いたりしてバランス感覚を養っています。

年長児がお世話をしているぶどうの木を見に行き、葉っぱを触って自然物とのふれあいを覚えていきます。



どれがいいかな？



こっちの砂は固い！



初めてのロングスコップ！



一人で座れたよ～



見てみて2個持てた！



2月下旬のぶどうの木。寒い冬を乗り越えて春を待っています。

3. その成果と評価

シンボルツリーの植樹は子どもたちにとって思い出になる良い行事になりました。水やりのお世話当番がとても楽しみで、ぶどうの木の質問もいっぱい浮かんだようです。その後、畑の夏野菜を育てることに熱心になり良い流れとなりました。年中、年少児はいつか自分たちもお世話ができると憧れを持ってぶどうの木の成長を見守っています。

園だよりにて、保護者にも砂場屋根設置と植樹の様子をお知らせしました。砂場に屋根がないことは保護者の皆様も心配されていたので大変喜ばれました。夏祭りや、運動会などでも日陰の場所ができほっとしています。

砂場も日陰ができたので前より長く砂場遊びができ、以前は終わりだよ、お片付けしようねと言うと「いやだ!」という子どもたちが多かったですが、今は子どもたちも満足してお片付けができています。我慢をさせていたのだと申し訳なく思い改善されてとても良かったです。

4. 今後の課題と展望

令和5年の夏は猛暑でプールに入ることもできない暑さでした。命に係わるほどの暑さで秋になってもなかなか気温が下がらず、戸外遊びができない状況で子どもたちも外に出られないストレスを感じているようでした。戸外遊びも大切ですが、外に出られない状況が続く時の室内活動を充実させていくべきと考えさせられました。リトミックの導入なども考えていますが、毎日の事なので職員会議で議題にし、保育士の工夫で改善していきたいと考えています。

子どもファーストの考えでより良い保育を職員一同行っていきたいと思います。

9月中旬の気温 39度。
夏は毎日のように 40度を
超えていました。



以上